

中国の港に空きコンテナの山！？

JSC 貿易部ニュース

いつもお世話になっております。

今月も当メルマガに目を通して頂いて誠にありがとうございます。

「コンテナ不足問題」をこのメールマガジンでお伝えしたのは2020年12月のこと。当時、コロナ第一波の封じ込めに一定の成果を見せた中国は、他国に先駆け経済的な打撃から立ち直りを見せ始めます。そして、中国の輸出再開とともに大きな問題になったのがコンテナ不足とコンテナ運賃の高騰です。日本向けの海上物流にも大きな混乱をもたらし、石材輸入にも遅延や物流コストの上昇など様々な影響を及ぼしたことは記憶に新しいところです。

あれから早二年。今度は一転して中国の港に「空きコンテナ」の山が積み上がっているとのこと。最近見たニュースによりますと、中国最大級のコンテナ港である上海港のコンテナヤードには、空きコンテナが溢れんばかりに積み上がっているそうです。



(写真はイメージ)

しかも上海港だけの話ではなく、中国各地の大型コンテナ港に、うずたかく積まれた空きコンテナの山が出現しているらしいのです。

海運会社向けに「空きコンテナ」のマッチング・サービスを提供している会社では、世界の主要港ごとにコンテナの空き具合を指数化した数値というのを発表しているのですが、その最新データによると、2023年第6週（2月5～11日）の上海港の指数は40フィートコンテナで「0.64」とのこと。この数値、「0.5」より大きいと空きコンテナの過剰、「0.5」より小さいとコンテナ不足を意味するのですが、現在11週連続で「0.6」を上回っています。

冒頭で振り返った2020年、新型コロナの感染拡大で港湾作業が滞り、空きコンテナが極端に不足した時期には、上海港における数値は「0.1」を下回っていましたから、この数値差から察しますと現在の過剰状態の深刻さがなんとなく伝わってきます。

特に2022年10月以降は、輸出製品を詰め込んで港を出て行くコンテナより、海外から戻ってくる空きコンテナのほうが多くなっているそうです。空きコンテナの置き場に頭を悩ます港では、余っているコンテナ船に空きコンテナを満載して沖合に係留しているケースもあるとのこと。

このコンテナ余りの背景にはいくつかの要因があるみたいですが、なかでも根本的なのが、コンテナの作りすぎです。新型コロナ流行後の物流回復にともない大きな問題となった「コンテナ不足」と「運賃急騰」をきっかけに、コンテナ・メーカーに注文が殺到する状態が続き、2021年だけで20フィートコンテナ換算で700万個を超えるコンテナが生産されました。これは平時の年間生産量の3倍近い数です。

そして、追い打ちをかけたのが国際貿易の低迷です。2022年に入ると、ロシアのウクライナ侵攻やインフレの影響などが重なり、欧米諸国の消費が減速。それに伴い中国から欧米に向かうコンテナの輸送需要が落ち込み始めます。

これが、中国に「空きコンテナの山」ができている大きな理由のようです。どこの業界でも、「ほどほどに」とか「安定して」というのは難しいみたいですね。

さて、今月の石のご紹介です。

何度かご紹介している石です。他社様でもサンプルをお持ちになって薦めておられると思いますが、当社では少し詳しくご紹介します。

今月ご紹介する石種は「OW-1」です。産地はカンボジアです。

「AG-98」や「G614」に替わる白御影石として、新たにラインナップに追加される石材店様が増えてきております。

中国の工場の中には、下のサンプル写真のように石の粒子の大小で「OW-1」「OW-2」などと細かく分類しているところもあるようです。ちなみに「OW-2」は、本来「OW-1」の近くの堀口から出ている石のことを言いますが、すべての石が写真のようにはっきりとした違いがあるわけではないので、実際の注文商品でこの種分けを実施することは困難ですね。

少し話は逸れましたが、この「OW-1」という石、非常によい石ではあります。この石の長所は、ひとつには原石の大きさです。長さ 9~10 尺の長尺物にも対応可能です。多少の色味の違いはありますが、最近は大量に原石が入荷しているため、石の揃いや石質そのものも良くなってきているように思います。多少の吸水はありますが、リーズナブルで綺麗な石です。



採掘状況・在庫状況とも安定しています。安心してお使いいただける石だと思えます。
是非、一度試し下さい。



中国の旧正月も終わり、いよいよ石材業界も正常運転に戻り始めます。

私たちも一層お客様のお役に立てるよう頑張っまいると思いますので、引き続き
よろしくお願い致します。

それでは今月も最後までお読みいただきありがとうございました。

2023/03/01